

はんと
中嶋 絆人 さん
(久保町)

キラリ★
話題の「ひと」



○プロフィール

小学5年生。市内のサッカーチームFC朱雀に所属。キーパー以外のポジションは全てこなすマルチプレイヤー。平日は放課後、土日も休まず日々の練習に励み、得意のドリブルの速さを活かしたサッカー技術に磨きを掛けている。好きな選手はリオネル・メッシ選手（FCバルセロナ所属）。

若きプレイヤーが
世界で羽ばたく

絆人くんは昨冬そして今春とスペインの有名サッカーチームFCバルセロナが主催する若手育成のエリートプログラムに参加しました。このプログラムは過去にプロサッカー選手を輩出するなど選抜された選手しか参加できないそうです。

本場スペインでサッカーを学べたことは絆人くんにとって大きな経験で「スペインの選手は体も大きく、パスの精度も高い。良い所は真似したいし、ますますサッカーを頑張らなければならぬ気持ちになりました」と率直な感想を話してくれました。また、本場スペインのサッカー文化にも触れ、日本と大きく違う所を感じたとも言います。「スペインは同年代の子たちが、道端でドリブルやリフティングをしている姿をたくさん見ました。また、色々な場所にFCバルセロナの旗が飾ってあり、みんなでサッカーを盛り上げていく気持ちを感じました。

芝生の大きいグラウンドもたくさんあり、身近にサッカーができる自由な環境がたくさんありました。けれど、日本は決まった場所ではサッカーを蹴ることができないし、サッカーができる場所も少ない。芝生のグラウンドも少なく、

とてもさみしい」とサッカーに情熱を注ぐ絆人くんは複雑な心境です。

両親や友達の影響を受け4歳からサッカーを始めました。「チームみんなで力を合わせて試合に勝った時が一番嬉しい。今、僕がサッカーをプレーできる日々を過ごせるのは家族やチームの仲間、コーチ、学校の友達、先生たちの応援のおかげです。みなさんに感謝の気持ちを届けられるようにサッカーを頑張っていきたいと思います。

今後の活動として6月下旬から、スペインで行われる国際大会に参加します。チームは11歳以下で構成され、世界から25カ国、250チーム、4千人の選手が集まります。絆人くんは日本チーム14人の中の1人に選ばれました。将来、日本のみならず世界を代表するサッカー選手が佐野市内から誕生する日も近いかもしれません。

(市民記者 飯田瞬)



スペインでの練習の一コマ

市長からの
メッセージ



あじさいの花が色鮮やかとなり、梅雨の時期がやってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先月から今月にかけて各種団体等の総会・講演会などが数多く開催されています。多くの方々とお会いできるよい機会であり、私も時間の許す限り出席し、皆さんからの幅広いご意見を市政運営に取り入れていきたいと思っています。

先月11日に、内閣府の片山さつき地方創生担当大臣が佐野市を視察に訪れました。国が進める地方創生に関し、先進的で意欲的な取組みや地域のニーズを把握し、今後の地方創生に活かすことを目的とした視察であり、本市の「佐野市国際クリケット場」並びに「佐野インランドポート」を訪れました。片山大臣からは、本市の「クリケットを活用したまちづくり」について、インバウンド誘客として全国でも先進的な取り組みであり、海外と本市との経済交流が地域経済の活性化、ひいては国家間交流につながる取組みになると興味を示してくれました。昨年の梶山大臣の視察に続き、2年連続の大臣の視察というところで、国も地方創生のモデルとして注目しておりますので、期待に応えられるよう、これからも事業を進めてまいりたいと思います。

さて、日本女性会議ですが、開催まで半年を切りました。大会スケジュールや分科会の各テーマなども決定され、いよいよ今月17日から大会参加申し込みが始まりますので、市民の皆さんもふるってご応募ください。また、安藤勇寿先生描きおろしの大会ポスターも完成しました。やさしい感じの作品になってますのでご期待下さい。

しばらく梅雨空が続きます。体調管理に充分気を付け充実した毎日を送りましょう。

岡部正英



片山地方創生担当大臣が本市を視察

5月11日、片山さつき地方創生担当大臣が本市を訪れ、佐野市国際クリケット場と佐野インランドポートを視察されました。

片山大臣は、人口減少・超高齢化社会、そして東京圏への人口一極集中を是正する「地方創生総合戦略」に続く次期計画策定のため、先駆的な地方創生の取り組みを進める本市を訪れたものです。

片山大臣は「佐野市国際クリケット場の視察では、クリケットが盛んな英連邦諸国、とりわけ成長著しいインドとの経済交流が、佐野市を起点として国家間交流に発展していくこと。そして内陸に港を開港した佐野インランドポートは、国際物流拠点となる取組。積極的に地方創生に取り組む佐野市は、次期計画の良い参考になります」と、地方創生を進める本市を評価し、その歩みに期待を寄せられました。

本市は、将来にわたる活力ある社会を維持・創造するため、クリケットやインランドポートなどによる国際経済交流の推進など、これからも、地方創生に取り組んでまいります。



クリケット場(上)とインランドポート(下)を視察する片山大臣

大相撲佐野場所

大相撲春巡業の「大相撲佐野場所」が4月22日、市民体育館で開催されました。佐野市での開催は7年ぶりとなり、相撲ファンや地元市民など約1,800人が来場し大相撲の迫力ある取組を楽しみました。

当日は序二段から幕内まで約150人の力士が参加し、朝の公開稽古や力士との握手会、撮影会があり、訪れたお客さんは生で見る力士たちに大満足している様子でした。また、相撲の禁じ手などを面白おかしく紹介する「初切」や力士たちが歌う「相撲甚句」が披露されると会場からは笑い



佐野弁
ばんてい

山中で獣などに偶然出会うことを
デッカスという

街角で思いがけなく昔の友だちに出会ったり、野や山で偶然にのしや鹿などに出合ったりすることがあります。このように偶然に出会うことを共通語では、「出交わす」といいます。まれには「かち合う」とか「行き合う」「鉢合わせする」などということもあります。方言では、偶然に出会うことを一般にデッカスといいます。このデッカスは、「出交わす」が変化したものです。「出交わす」とは、出合いがしらに、お互いに目と目を交わし合うことでこれが本来の意味です。

「山のテンジクダマ(頂上)付近にブチカッテ(腰をおろして)休んでいたら、山のモコーガワ(反対斜面)で、かさかき音がするンでナンダンベ(何だろう)?そと行つたら、なんと熊にデッカシタ。だが、熊もビツクラコイテ(たまげて)、ヌゲテ(逃げて)ったよ」

「出くわす」を強めると、「出つくわす」になり、さらに変化したのがデッカスです。中高年者の多くは、このデッカスを使っています。でも、最近を使う人が少なくなりました。思いがけず出合うという意味の方言があります。それはデッカセルとデッカサルです。いずれの方言もデッカスと意味も用法も同じです。

「山でこのを探して、あちこち歩き回っているとき、ボツトシたら(もしかしら)オッカネー獣にでもデッカセルンジャーネーかと内心びくびくしてましたよ」

(市民記者 森下喜一)

今回の表紙 「くずらフェスタ2019」 令和元年5月11日撮影

